

山口県労福協機関紙 連合山口・労働金庫・全労済山口・県生協連・13地区労福協

やまぐち労福協

vol.143
2013.6月号

一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

〒753-0078 山口市緑町3番29号 TEL(083)925-7332 FAX(083)921-1650
Eメール roufuku@orange.ocn.ne.jp 発行人:大塚健二・編集人:廣瀬哲夫

山口県労福協「第2回通常総会」開催

5月29日(水)労福協会館において、第2回通常総会を開催しました。総会には代議員17名を含め41名が出席しました。長嶺副会長の開会挨拶で始まり、議長に防府地区労福協会長の高畠孝明代議員を選出しました。



続いて理事会を代表して中野会長は「安倍ノミクス効果による円安・株高は、一部に好影響があるものの多くの人にはその実感がないなど2極化が進んでいる。勤労者所得の改善が進まないことや将来の社会保障制度の展望が明らかにされない中で、多くの国民は将来的な不安を抱えている。雇用環境は改善されつつあるが、非正規労働者は依然増加している。また、経済成長へ向けた規制会議において、解雇にかかる「金銭解決」や「派遣労働規制の大幅緩和」など、雇用に係る規制改革(緩和)が検討されており、働くものの環境は依然として不透明なものである。県労福協は、この一年、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現」に向けて、会員団体や地区労福協の皆さまのご協力を得て、生活あんしんネットを中心にパーソナルサポートやしゅ

うなん若者サポートステーション事業を行ってきた。今年度はPS事業に替わる国の支援事業を受託し、これまでPS事業で培ってきた経験や実績を活かして、さまざまな地域で、勤労者・生活者の拠り所としての活動を引き続き展開したいので、関係各位のご協力をお願いしたい。」と挨拶しました。続いて来賓の木村進県商工労働部長、野村和司山口市経済産業部長、小林正宜こころの会本部長から祝辞をいただきました。議案審議では、第1号議案2012年度事業報告、第2号議案2012年度会計決算報告、公益目的支出計画実施報告及び監査報告、第3号議案2013年度事業計画(案)、第4号議案2013年度予算(案)について、代議員の拍手により全会一致承認されました。第5号議案役員補欠選任の件については、杉本役員選考委員長より提案され、代議員の拍手により全会一致承認されました。続いて新旧役員が辞任ならびに就任の挨拶を行いました。



—新任役員あいさつ—

最後に議長が総会スローガンを読み上げ、出席者全員の拍手をもって採択しました。有吉副会長による閉会挨拶で11時54分に終了しました。

2013年度 山口県労福協 役員体制

役 職	氏 名	所 属 団 体
会 長	中野 威	全労済山口県本部
副 会 長	杉本 郁夫	連合山口
	長嶺 平治	中国労働金庫
	有吉 政博	山口県生活協同組合連合会
専務理事	大塚 健二	員 外
理 事	山近 和浩	連合山口
	後藤 武幸	連合山口
	岡本 博之	連合山口
	新村 一男	周南地区労働者福祉協議会
	清水 英治	下関地区労働者福祉協議会
	中村 嘉明	中国労働金庫
	瀬光 宏幸	全労済山口県本部
	吉崎 博	山口県生活協同組合連合会
	森本 節子	山口県生活協同組合連合会
監 事	中繁 尊範	連合山口
	山根 英明	中国労働金庫
	中原 秀喜	全労済山口県本部

《退任役員》

在任中のご厚誼に感謝申し上げます。

理 事	加藤 栄	員 外
	築山 博	周南地区労働者福祉協議会
	曾根 辰実	下関地区労働者福祉協議会
監 事	中元 直樹	連合山口
	栗林 節	中国労働金庫

西部労福協「2013年度交流事業」開催



～岡山県の文化・歴史探訪（備前市・倉敷市）～



4月19日(金)～20日(土)に西部労福協交流事業（中国地方の歴史探訪）が、岡山県の備前市と倉敷市を中心に実施されました。山口県労福協からは地区労福協・事業団体・高退連合などから10名が参加しました。初日は、江戸時代前期に庶民を対象に教育施設として創建された「閑谷学校」を見学しました。続いて日本の六古窯といわれている備前の窯場を訪れました。2日目は国府寺の一つである備中國分寺跡を散策しました。境内には、山口の瑠璃光寺の五重塔を思わせる塔が

あり、吉備路の代表的な歴史景観となっています。最後に、大原美術館と倉敷美觀地区を巡り、今回の歴史探訪を終えました。



—山口県労福協の参加者—

◇ 参加者の感想 ◇

文化歴史探索の中で、特に閑谷学校からは簡素の中に高い精神性を宿していると感じました。人材育成の大切さを理解し封建時代に庶民と武士の学校を「末代まで廃れざるものづくり」を基本に自立経営され340年経った今でも施設・建築物の素晴らしい姿勢と共に

感しました。他施設でも同様です。私たちも、時間を超越したものづくりや本質追及の意識を高めれば、もっと良い製品やサービスが出来て結果社会貢献できる事を少し感じ考えさせる事が出来た良き機会となった事を報告致します。

(防府地区労福協 事務局長 田嶋慎司)



第15回会長杯ボウリング大会開催のお知らせ

毎年恒例となった会長杯ボウリング大会を今年も下記要領で開催します。
スポーツを通して各地区労福協・事業団体間の親睦を深めましょう。
各地区労福協で予選を勝ち抜いた強豪ぞろいで見ごたえも充分です！
ボウリングでいい汗かこう！ 参加賞もお楽しみに♪



開催日時 7月20日(土) 12時受付開始、13時開会式

開催場所 山口市泉町9-1 「ボウリングの森」

チーム編成 1チーム4名

●3ゲーム投球して総トータルピンで順位を競います。

★しゅうなん若者サポートステーション 2013年度事業実施計画★

～サポステ・学校連携推進事業を開始～

近年、若者の数が減っているにもかかわらず、ニートの数(県東部地区の若者無業者数は推計で2,879名)は高止まりしています。

ニート等の若者の就労を支援することは、将来、生活保護に陥るリスクのある層を経済的に自立させ、社会の支え手とする重要な施策です。その自立を支援するため、山口県労福協は平成20年度より厚生労働省の地域若者サポートステーション事業を受託し、県東部(周南市～岩国市)をエリアとする「しゅうなん若者サポートステーション」を同年6月に開設しました。



開設から本年3月末までの相談数累計は
15,896名、登録者累計は712名で、その内

536名が進路を決定しています（進路決定率75.2%）。また、山口県内における平成22年度公立高校及び私立高校の中退者数は431名となっており、学校から社会への移行が困難な若者に対して、平成25年度から「サポステ・学校連携推進事業」を、県内の4つ（周南・防府・宇部・下関）のサポートステーションにおいて開始しました。この事業は学校との連携を構築し、在学生・中退者支援を推進することによりニート化の未然防止を図ることを目的としており、具体的な取り組みとしては、合宿形式を含む生活面等のサポートと職場実習の訓練を集中的に行う「若者無業者集中訓練プログラム事業」を実施し、ニート等の若者の就労を、県東部の行政機関や教育機関等と連携して強力に支援していくものです。しゅうなん若者サポートステーションは昨年度受託したアウトリーチ事業の経験を生かすとともに、総合相談窓口の設置や「サポステ・学校連携事業」の実施に向けて連携推進リーダーを配置するなど、人員も含めた体制を強化するなかで実施してまいります。



しゅうなんサポステ 事務所移転のお知らせ

しゅうなんサポステはサポート体制の充実に伴い、6月4日より事務局を移転しました。

新事務所は徳山駅から徒歩5分の場所で、周南市市営駐車場に隣接しています。

《新住所》

〒745-0037 周南市栄町 2-55

《電話》0834-27-6270 (変更ありません)

≪FAX≫0834-31-2088 (変更ありません)



「家計の見直しキャンペーン」実施

～労福協と中国ろうきんの共同取り組み～

中国ろうきんは、本年10月1日に設立10周年を迎えます。その節目の年にあたり、これまで中国ろうきんが継続して取り組んできた生活応援運動をさらに強化し、勤労者のセーフティーネットとして、会員や利用者の期待に応えていくことを目的に、6月1日から10月31日まで「家計の見直しキャンペーン」を実施します。

これは、中国5県の労福協と中国ろうきん

の共同取り組みで、5月に県労福協会長と中国労金理事長の連名で会員あてに案内文書が送付されました。また、6月11日開催の2013年度地区労福協事務局長会議では、中国労金山口県営業本部よりキャンペーンの具体的な取り組み内容について報告されました。会議では、今後各地区労福協で開催される事業団体合同推進会議等で、会員団体へ周知することを確認しました。

【取り組み内容抜粋】

- ①「助け合い制度」の周知、「多重債務未然防止」のための啓発活動
- ② 借り換え運動
- ③ 返済条件変更対応
- ④ 相談活動
- ⑤ 利用ニーズへの対応
- ⑥ 全労済との連携



ありがとう
気持ちをつなぐ
**10周年
キャンペーン**

●福祉ホットラインクラブの活動終了のお知らせ●

福祉ホットラインクラブは、1999年11月の発足以来、山口市と周南市でボランティアを続けてまいりましたが、2013年3月31日をもちまして活動を終了いたしました。

これまで活動に参加いただいた会員の皆さまや会員登録いただいた皆さま、ボランティアを受け入れていただいた施設の皆さんには格別の、ご厚情を賜りましたことを心より御礼申し上げます。



地区労福協だより

◇宇部地区労福協「勤労者ソフトボール大会」◇

宇部地区労福協は5月18日（土）、中部地協宇部地区会議との共催で勤労者ソフトボール大会を開催しました。大会には労働組合から16チーム（約230名）が参加し、4ブロックに分かれて優勝を競いました。心配していた天気も当日は快晴となり、久保田宇部市長の始球式の後、白熱した試合が繰り広げられました。次年度以降も宇部市で働く勤労者の親睦と融和のために、各種イベントを開催したいと考えています。



生活あんしんネットより

福祉相談事例



【相談概要】

50代女性。先日、家族で長年やってきた店を閉めた。その後、夫は障害者施設に就職したが、自分はなかなか職が決まらずにいる。周囲にも「まだ就職先が見つからないのか」「働く気がないのか」とせかされ焦っている。しかし現状でも充分生活はできるし、店での収益を思い出せば、今さら働きに出るのも気が進まない。いろいろ考えていると夜も眠れず、一日中気が滅入っている。

【回答・対応】



しっかり傾聴したうえで、就職をあせらずしばらくゆっくり休養することをアドバイス。そして気持ちにゆとりを持てたら、自分が出来ることをやっていくようすすめた。